

## 入選

### 親切の輪

香川県 榎井小学校

4年 望月和華

ある朝、学校へ行くとき、

「お姉ちゃん、おはよう。行ってらっしゃい。」

と言って、手を大きくふり、あいさつしてくれる1人の女の人と出会いました。それに母が、

「おはよう。行ってきます。」と答えます。道路の向こう側から手をふる女の方は、母よりもはるかに年上に見えます。でも、母のことを「お姉ちゃん」とよびます。わたしは、女の方が自転車で走り去った後で、

「お母さん、だれ。知ってる人？」

と聞くと、「うん、おばあちゃんの知り合いや。」と教えてくれました。

名前は、さとみさん。少し知的しょうがいがあるそうです。何年か前に、祖母がスーパーで困っていたさとみさんに声をかけて、助けてあげたそうです。それから、祖母を見かけると、「お母さん」と言って、うれしそうに話をするそうです。何度か母もいっしょに話をしたので、母のことを「お姉ちゃん」とよぶようになったのだそうです。

祖母に朝のことを言うと、

「さとみちゃんはすごいなあ。朝から元気をくれるな。」と、さとみちゃんをほめました。わたしは、ハッとしました。なぜならそのとき、わたしは少し頭を下げただけで、声も出さなければ、手もふりませんでした。はずかしい、とってしまったのです。

それから、さとみさんとは毎日のように会うようになりましたが、さとみさんは、毎日同じように、「おはよう。行ってらっしゃい。」と言いつづけてくれています。わたしは、お母さんの後ろで、やっと手がふれるようになりました。声はというと、車の音に消されてしまうくらいの声しか出ていません。

そんなある日、わたし1人で登校することになりました。さとみさんに会うだろうか、そう思いながら歩いていました。でも、さとみさんのすがたがありません。ちょっとホッとしているわたしでした。すると、遠くの方から、何か聞こえるような気がしてふり向くと、一生けん命自転車を走らせている女の人が見えました。さとみさんです。「おはよう。行ってらっしゃい。」と手をふっています。

わたしは、そのさとみさんを見たとき、むねがキュンとしました。わたしは、さとみさんに大きく手をふり返して、大きな声で、「行ってきますあす！」とさげびました。言えた。何かむねのおくにつまっていたものが、ずっと消えたような気がしました。

さとみさん、毎日わたしに思いやりの言葉をかけ続けてくれて、本当にありがとう。

祖母の親切を、やっと受け取れたわたし。こんなふうに、広がれ。広がれ。親切の輪。